



発行責任者：歯学部長 宮崎 隆，編集責任者：広報委員長 佐藤裕二
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
ホームページ：<http://www.showa-u.ac.jp>

巻頭言 「祝入学」 歯学部長 宮崎 隆

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。昨年から今年にかけて、我が国では台風や地震、豪雪などの災害が続き、皆さんも落ち着かないなかで受験勉強を強いられてきたと思います。社会や経済が混沌としているなかで、我が国では急速な超高齢社会を迎えて、医療、さらに保健・福祉を取り巻く環境が変化し、医療専門職に対する社会の要求が変わりつつあります。皆さんは将来に対する夢を持って、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を送ってほしいと思います。



本歯学部においては、これからの時代に活躍できる歯科医師を養成するために、昭和52年の歯学部創設以来はじめての大きなカリキュラムの改編を行い、平成16年度から順次実施しています。医系総合大学としての本学でなければできないカリキュラムであり、他大学からも注目されています。

今歯科界では、生活習慣病の一つである歯周病の予防と治療、メンテナンスを通じて、生涯国民が自分の歯で食事をして口腔から健康を維持していく目標（これを8020運動、すなわち80歳で自分の歯を20本残す目標）に取り込んでいます。また、全身的な障害があって歯科の診療室に通ってこられない患者さんに対して自宅や施設、さらに病院の病棟などに出かけて行って、口のなかの悩みを解決してあげることが必要になります。さらに、社会がより快適な生活を望み、美容に対する要求も高まってくると、従来よりも快適な入れ歯や見栄えのよい歯並びや顔貌が求められます。このような、新しい時代の歯科医療を遂行するためには、従来の歯科医療のなかで歯科衛生士や歯科技工士との協力が必要であることはもとより、医師、薬剤師、看護師、作業療法士、理学療法士を始め、多くの医療関係者とのチーム医療が必要になります。この点で、医学部、薬学部、保健医療学部がそろった本大学は最高の環境といえます。

カリキュラムだけでなく、施設についても、旗の台校舎の材料・技術系の実習室の改修を行い、最新の設備を導入しましたし、昨年は皆さんが臨床実習を行う歯科病院についても、院内の改修を進め、新しい診療科をオープンさせました。

さて、本学の1年生の生活の特徴は寮生活です。皆さんにとって期待とともに不安も大きいでしょう。寮生活には、自主性を尊重した共同生活、他学部の学生との交流、雄大な富士山の自然に囲まれた環境など多くの利点があります。この寮生活を通じて一人でも多くの友人をつくり、友人から多くのことを

学び、ともに成長して欲しいと願っています。そして、是非とも規則正しい生活をして、良い生活習慣を身につけるようにしてください。さらに、様々なスポーツ施設が完備している環境を生かして、是非、運動部に所属して、体を鍛えて欲しいと思います。将来の医療専門職は頭脳だけでなく、体力が必要です。学生時代は体を鍛える最後の機会になります。時間を有効に使って是非体を鍛えて下さい。短い一年ですが、密度の濃い、一生の思い出になるように、期待しています。

皆さんが入学時よりも、一回りも二回りも大きく成長して、旗の台キャンパスに進学してくるのを楽しみにしています。

入試情報 歯学部長 宮崎 隆

選抜Ⅱ期入試が3月6日に行われました。入試科目については、昨年と同様に、英語か数学のいずれかと理科（物理、化学、生物から1科目選択）の2科目に変更になりました。昨年度は東京歯科大学と試験日が重なっていましたが、今年度は日程がずれて単独の入試となりました。そのせいか、8名の募集に対して193名(24.1倍)もの志願者があり（昨年度より46名増）、8名(男3, 女5)が合格しました。以上で、平成17年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた教職員の皆様、誠にありがとうございました。

CBTフラッシュアップ講習会 口腔解剖学教室 中村 雅典

1月22日に本学名誉教授の道健一先生をお招きして、旗の台病院中央棟7階研修室においてCBT問題のフラッシュアップ講習会を行いました。当日は宮崎歯学部長、岡野教育委員長、立川学生部長はじめ各教室のCBT委員や実際に問題を作成した教員に数多く参加していただきました。今回、各教室にF領域でわる臨床歯学教育を中心として順次解答2連問、4連問形式(W, Q)問題と多選択肢問題2連問、4連問形式(L, R)問題を作成していただき、道先生を中心としてフラッシュアップ行いました。学生がCBTで好成绩を得るためには、我々教官が質の高いCBT問題を作成することが重要であり、各教員皆真剣にフラッシュアップをしていました。

人事 広報委員長 佐藤裕二

昇任 倉地洋一員外教授 (3/8付)
顎口腔疾患制御外科学
森崎弘文講師 (4/1付)口腔微生物学
山縣徹哉講師 (4/1付)高齢者歯科学
配置転換 井上 紳助教授 (4/1付)
豊洲病院内科より歯科病院総合内科へ

平成16年度卒業式・第22回歯学部伝達式

歯学部長 宮崎 隆

3月4日に平成16年度の卒業式と、各学部に分かれての卒業証書・学位記伝達式が挙行されました。前日の夜から東京は雪になり、吹雪の中の式典でした。歯学部の伝達式は1号館7階講堂で、歯学部教授、同窓会関係者、大勢のご父兄の参列のもとに厳粛に執り行われました。式は立川学生部長の開会の挨拶に始まり、私、川和歯科病院長、飯島同窓会長の祝辞の後、私から112名の卒業生に卒業証書・学位記を一人ずつ伝達しました。引き続き、昭和大学歯科医学生賞4名とデンツプライ賞2名の表彰を行い、岡野教育委員長の閉会の挨拶で終了しました。卒業生は3月16-17日に国家試験を控えています、無事に合格しそれぞれの進路で活躍が期待されます。



23回生卒業祝賀会 広報委員長 佐藤 裕二

3月22日にパークハイアット東京(西新宿)にて、開催されました。細山田学長のご挨拶、川和病院長の乾杯のご発声に引き続き、卒業生の喜びにあふれた会でした。宮崎学部長、岡野教育委員長の祝辞があり、学生の投票による教員の表彰もありました(すてきな先生、授業のわかりやすい先生、アフターファイブの充実しているような先生、厳しい先生、体が心配な先生・・・)。残念ながら私は「厳しい先生」の第2位に留まりましたが、今回は1位を目指したいと思います。最後に、急遽予定を変更してご参加頂いた小口理事長より、卒業生への餞のお言葉をいただきました。厳しい状況といわれていますが、きっと立派な歯科医師であると同時に、尊敬される社会人になってくれるものと信じています。

PBLチュートリアルシンポジウム

口腔解剖学教室 中村 雅典

2月11日に東京医科歯科大学において、歯科医学教育学会主催の歯科医学教育におけるPBLチュートリアルシンポジウムが開催されました。日歯大新潟、福岡歯科大、昭和大、新潟大、医科歯科大の先生が講演されました。本学からは顎口腔疾患制御外科学の片岡講師が昭和大学歯学部におけるPBLという演題で講演されました。全国各歯科大学歯学部の教員が参加しましたが、本学からは11名の参加があり、講演内容もこれまでの本学におけるPBLでのデータをもとにしたもので、他の演題に比して抜きん出たものであったと思われます。

臨床研修医修了時のOSCEの開催

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成17年3月22日、総合診療歯科外来にて研修医OSCEを実施しました。実施課題は①デンタルX線写真の読影、②義歯装着後の指導、③抜歯後の注意、④歯周病の病状説明、⑤テンポラリークラウンの作製の5題で、ストレート方式2系列を準備しました。①～④は実施時間5分、フィードバック2分、⑤のみ実施時間25分、フィードバック4分で実施しました。研修医たちが研修成果を発揮すべく各課題に一生懸命取り組み、これに応じて指導医も制限時間一杯にフィードバックしているのが印象的でした。すべて基本的な課題でしたが、評価は形成的評価とし、研修医たちが点検すべき能力を再確認してくれることを期待しております。



大野教授送別会 口腔微生物学教室 五十嵐 武

顎口腔疾患制御外科学講座の大野康亮教授が平成17年3月をもって御定年を迎えられるのに伴い、歯学部教授会主催による送別会が3月の定例教授会のあと行われました。教授会を代表して宮崎歯学部長の挨拶に始まり、歯科病院および口腔外科学講座を代表してそれぞれ川和病院長ならびに南雲教授から大野教授のこれまでの診療・教育・研究など多方面にわたる功績に対して感謝の意を表すると共に、ご退職後も引き続き口腔外科診療および後輩の指導などで是非、歯科病院にご協力願いたいとの挨拶がありました。

なお、大野教授にはご退職後も昭和大学歯学部客員教授として在籍して頂くことが内定しています。



外国人研修生懇親会 齧蝕・歯内治療学教室 呉 建

1月20日（木）に9名の外国人研修生参加のもと大学病院中央棟7階食堂で開催され、細山田明義学長、各指導教授及び国際交流センターの職員と懇親を深めました。歯学部から、齧蝕・歯内治療学教室の張虹と呉建（中国）、歯科理工学教室のレーザ（バングラディシュ）の3名の先生が参加しました。

最初に細山田学長が「交流は年々盛んになってきて、皆さんも研究成果を存分に発揮してほしい」と挨拶され、国際交流センター長による乾杯で会が始まりました。研修生が自己紹介を行い、張虹先生が外国人研修生の代表として、「私達研修生が教授の元で立派な知識と優れた技術及び先進の研究方法等、ご指導ご鞭撻を頂き、とても充実した毎日を送る事ができました。昭和大学で習得した知識をできるだけ活かして、世界の医療の向上と発展に努め、さらに日中両国間の医学交流を深める事に貢献したいと思えます。この場をお借りして、教室の先生方や国際交流センターの方々の方々の日常生活まで応援して下さった事に感謝すると共に、この思いを忘れず、衷心よりお礼の言葉とします。」と挨拶がありました。その後、研修生達が自分の国の事、日本で始めて体験した事、日本の食べ物から文化まで、歓談しました。2時間の懇親会は終始友好的、活発な雰囲気に入れ、あっという間に終了しました。

最後に研修生全員が学長を囲んで、また、歯学部の研修生達が学部長の宮崎教授、岡野教授を囲んで記念写真を撮りました。



臨床研修医選考 総合診療歯科 長谷川 篤司

平成17年度臨床研修医の選考考査を2月25日に歯科病院にて行いました。試験内容は事前にホームページに掲載、予告した①面接、②小論文、③歯型彫刻の3課題で、小論文の課題として「臨床研修医に必要な生涯学習について」、歯型彫刻の課題として「下顎左側第一大臼歯」を出題いたしました。

当日、面接に久光副病院長、歯型彫刻に近藤講師（口腔解剖学）の全面的な協力をいただきました。今回、考査を導入した意義として、受験者を合否だけでなく、整然とした順位付けして評価できる体制の整備ができました。これは次年度臨床研修必修化に伴うマッチング導入に対応する準備として位置づけています。



留学生紹介 歯科理工学教室 Fazal Reza

フェザール・レザ先生は、以前昭和大学で研究を重ねていたホサイン先生の紹介により、バングラディシュから歯科理工学教室へやって来ました。わずか9ヶ月ではありましたが、言葉や文化の違いに戸惑いを覚える以上の成果を感じたようで、本年4月より東京医科歯科大学の大学院に進むこととなりました。そこで、本学を後にするにあたり、自己紹介を書いて頂きました。



Brief introduction

It is indeed a great pleasure for me to say a few words in this event of Showa University. I was born in October 1973 in Dhaka, the capital city of Bangladesh. I graduated from dental school of Dhaka University in 1999 and completed my post graduation course in 2003 from a Post Graduate Dental University at Dhaka. Soon after my graduation I joined as a teaching staff in the faculty of dentistry at City Dental College & Hospital. In July 2004, I got the great opportunity to join as a research fellow in the department of Bio-materials and Technology under the instruction of Professor Takashi Miyazaki. The friendly environment in this department will be a great inspiration to study further in Japan. After passing such a valuable time in Japan, I can make a good use of my experience of living and studying in this great country.

Research area :

Application of Gypsum bonded investment with MgO as a refractory material, in Titanium casting to make more stable and easily handled dental investment.

Titanium having its outstanding biocompatible property has gain a lot of popularity in the fixed Prosthodontics and material of choice for implant technology. My research was to find out gypsum bonded investment material using a suitable refractory for Titanium casting. Refractory material such as silica used in phosphate bonded investment reacts with titanium but a stable refractory like MgO with gypsum as a binder has minimum reaction with titanium. Moreover gypsum bonded investments is easy to operate, more cost effective, shows relatively large setting expansion and adequate green and fired strength.



口腔リハビリテーション第2回公開講習会

口腔リハビリテーション科科長 高橋 浩二

口腔リハビリテーション科主催の第2回公開講習会「補綴的発音補助装置を用いた言語治療」を2月24日に開催しました。参加者は、22名（言語聴覚士14名、他職種8名）で、発音補助装置の作製方法、治療成績について紹介しました。

これに引き続き2月28日には第2回病棟勉強会「頭頸部癌術後患者に対する摂食・嚥下機能療法」を開催しました。出席者は38名（衛生士17名、看護師11名、その他10名）で、摂食・嚥下障害の診断と治療のほか、立ち上げを予定しているNST（Nutrition Support Team）の基礎理論であるTotal Nutrition Therapy（TNT）について紹介しました。

当科の歯科医師4名は日本静脈経腸栄養学会後援によるTNT研修会を修了しており、また会の席上、鴨志田栄養科主任よりNSTへの協力の快諾が得られ、NST立ち上げの準備が整いました。



新東京歯科技工専攻科研修生卒業発表会と修了式

歯科病院副院長 久光 久

平成16年度新東京歯科技工専攻科第8期生の研修生卒業発表会が平成17年3月8日（火）9時30分から昭和大学歯科病院2号棟1階会議室で行われ、8名の研修生が、4月から研修生となる第9期生6名、中央技工室の山口室長ほか直接指導に当たった技工士、川和病院長、久光副院長（技工部長）、外川事務長ほか事務系職員、新東京歯科技工士学校から福原校長、中村理事長、教務主任、副主任などを前に、それぞれ歯科病院中央技工室での研修の成果を発表し、1年間の大いなる成長振りを披露するとともに第9期生の後輩たちに大きな夢と目標を与えました。

引き続き、11時30分から修了式が行われ、川和病院長から一人ひとりに修了証書が、そして久光副院長から石川徳義君に優秀賞が手渡されました。



大学院終了式

学生部長 立川 哲彦

3月24日に大学院修了式が行われ、16名が学位記を授与されました。学長から「今後は教育者としてもがんばってほしい」の祝辞をいただきました。学部長からは、「さらに研究をすすめてほしい」との激励のお言葉をいただきました。16名は、感激の中で、新たな目標に向かい、決意を新たにしたいものと思います。

場所を入院棟17階にかえて、懇親会が行われました。修了者たちは、これまでの苦労や感激を時が過ぎるのも忘れて語り合いました。各自が将来の抱負を述べ、和やかななか、閉会しました。研究・教育者になるもの、臨床家になるもの、大学に残るものなど、進路は様々ですが、これまでに成し遂げてきたことを誇りに思い、がんばってくれるものと思います。

4月から新たな入学生31名を迎えますが、さらなる大学院の充実を図りたいと考えています。



診療統計(平成17年2月分)

区分	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	15821	753.4	749.1	727.2
入院患者	386	13.8	10.7	14.8

行事予定

広報委員長 佐藤 裕二

- 4月 1日(金)：歯科病院内覧会
- 4月 1日, 4日, 5日：学生ガイダンス
- 4月 8日(金)：入学式
- 4月 9日(土)：入寮式
- 4月19日(火)：歯科医師国家試験発表

編集後記

広報委員 坂井 信裕(歯科薬理学教室)

年度末のお忙しい時期にも関わらず、ご寄稿して頂きました先生方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。来年度（平成17年度）は共用試験本格実施と卒後研修義務化へ向けた準備の最後の一年です。各準備委員会の先生方におかれましても、ご多忙を極めるかと存じますが、皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。